

平成29年度大学院地球社会統合科学府

修士課程（冬季）入学試験

入学試験問題

③ 地理学

注意事項

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

問1・問2のいずれにも解答しなさい。

問1 以下の10の用語から5つを選択し、選択したすべての用語について、選択した番号を示した上で、簡潔に説明せよ。5つの用語の説明で解答用紙1枚を用いよ。(配点：各20点、計100点)

- 1) SMSA (Standard Metropolitan Statistical Area)
- 2) オゾンホール
- 3) 基盤産業と非基盤産業
- 4) CIC (Community Interest Company)
- 5) 進化経済学
- 6) 地すべり
- 7) 都市化の経済
- 8) 文化産業
- 9) U字谷
- 10) 弱い持続可能性

問2 以下の設問から1つを選択し、選択した番号を示した上で、解答せよ。選択した設問で解答用紙1枚を用いよ。(配点：100点)

- 1) アクセシビリティ (近接性) に関して (1) その基本的な概念について述べ、(2) アクセシビリティによる地域経済への影響を示す事例をあげ、さらに (3) 自らがアクセシビリティに着目した地理学的研究をおこなうことを仮定し、その研究計画を記述せよ。
- 2) 火山灰編年学について (1) その内容を説明し、(2) いくつかの研究事例を紹介し、さらに (3) 自らが火山灰編年学を用いた研究を行うと仮定して、研究対象と研究計画を設計せよ。
- 3) 地域の観光活性化への取り組みとして、(1) 特徴的な例あるいは成功例としてあげられている地域の事例や内容を紹介した上で、(2) 活性化を実現するために整備すべきものや必要な条件をあげ、(3) 解答者自身が考える研究課題や論点について説明せよ。
- 4) 犯罪防止のまちづくりに関して (1) その基本的な概念について述べ、(2) 成功した事例をあげ、さらに (3) 自らが犯罪防止のまちづくりに着目した地理学的研究をおこなうことを仮定し、その研究計画を記述せよ。